

高萩市衛星通信記念公園



「Zekkei いばらきフォトコンテスト2019」
【アクティビティ賞】 宙との交信
表紙写真提供：茨城県営業戦略部観光物産課

7月7日の「七夕」。江戸時代には「五節句」の1つに位置付けられ、和歌や願い事を短冊に書いて笹竹にくくりつける行事は、幕府の公式行事として浸透し、現在まで続いています。

夜、空を見上げれば、織姫と彦星が年に1度会うことができる「天の川」が美しく輝き、その神秘的な情景に心を奪われることでしょう。

天の川は、銀河系を横から見た姿と言われています。「天の川銀河」の直径は約10万光年もあり、銀河の中には、数えきれないほどの恒星の集団が浮かんでいます。

そんなロマンあふれる宇宙の姿を観察し続ける巨大パラボラアンテナが2台、日立市と高萩市にまたがった小高い丘の上に建っています。

1963年、この地に「茨城宇宙通信実験所」が開設、1965年に「茨城衛星通信所」と改称された後も、長年にわたり日本の国際衛星通信の重要な役割を果たしました。

現在は、国立天文台茨城観測局と茨城大学宇宙科学教育研究センターが衛星通信アンテナから電波望遠鏡に改造された各アンテナを運用し、日々、銀河の仕組みなどの解明に当たっています。

「日本の衛星通信発祥の地」と称された同所の跡地は、「高萩市衛星通信記念公園（通称、さくら宇宙公園）」として活用され、多くの市民の憩いの場として親しまれています。

新型コロナウイルス感染症が終息した後、ご家族・ご友人とともに、日本で初めてテレビ衛星中継を受信した地に足を運び、雄大な宇宙に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。



◆場 所：茨城県高萩市大字石滝608-1

◆アクセス：

【車】常磐自動車道「高萩IC」より約20分
「日立北IC」より約15分

【電車】JR常磐線「高萩駅」よりタクシーで約10分。
または、バスに約15分乗車後、停留所から徒歩で約5分